

Vol.18 2020年度 I

COOL
CHOICE

未来の
ために、
いま選ぼう。

しまねのエコ技
木のぬくもりを
感じる店
(出雲市)



しまエコ

未来で多くの生きものに会える権利

特集

このままでは絶滅してしまう!! 時間がない生きものたち

島根県の絶滅危惧種と保全活動 / 私たちにできることは? / 今、HOTなnews

ふろく
実際に
会いに行こう!
自然館で見られる
絶滅危惧種

in
ゴビウス、サヒメル

このままでは 絶滅 してしまう!!

SOS!

スマトラオランウータン

森がどんどん『ヤシ畑』になって、住む場所やエサの果物が無くなっているよ。ヤシからとれるパーム油(『植物性油』)はとても便利だけど人の都合で絶滅しそうな生きものがあるんだ。



2100年
までに
絶滅!!



ホッキョクグマ

温暖化の影響で氷が減って、上手く狩りができないんだ。夏までに充分な脂肪が蓄えられないと子育てでできず餓死してしまうよ。



アオウミガメ

卵を産んだ砂浜の温度で、オス・メスが決まるといわれているよ。温暖化で砂浜の温度が上がると、みんなメスになっちゃうかも!海面が上がれば、卵を産む砂浜も無くなっちゃう。



一部の州で
2050年までに
絶滅!!

コアラ

開発や干ばつで、水やエサのユーカリがなくなっているんだ。このまま高温・乾燥した気候が続けば森林火災も発生しやすくなるよ。



島根にはこんな植物もいるよ!

オキタンポポ・ブナ林

隠岐の固有種で日本のタンポポの一つ

島根県にはその場所にしかない動植物(固有種)がたくさんあります。例えば、『オキタンポポ』は隠岐諸島だけに咲く可愛いタンポポ。花の下にあるガク(総苞外片)が反り返らずに花にぴったりとくっついているのが特徴です。

また、ハイキングや森林浴で人気の『ブナ林』は、豊かな土や海を作るだけでなく、さまざまな野生動物のすみかであり、ドングリなどの実は彼らの大切な食料です。

涼しい気候が好きだから温暖化が心配! このまま暑くなると日本中でブナ林が減ると言われているよ。



どうしてこうなったの?

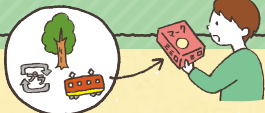
世界各地で生きものが減ってしまったのはなぜでしょう? 原因はさまざまですが、大きな問題になっているのが『人間の影響』です。必要以上に狩りや漁をしたり、街や工場をつくるために彼らの住みかを壊したり汚したり…。中でも急速に進む地球温暖化による影響は大きく、まだ私達が出会っていない新種の生きものまで絶滅の危機にさらされています。また、暮らしの中で身近にあるものが、生きものたちをおびやかしていることもあります。例えば、お菓子や化粧品などに使われ、バイオマス発電にも使える『パーム油(植物性油)』、『地球に優しいエコな油』とも言われていますが、原料となるヤシの畑を広げるため、スマトラ島の熱帯林がどんどん壊されています。もうスマトラオランウータンには行き場がありません。私達が毎日使うもの、口にするもの、便利なものの背景に何かを犠牲にしていないか、例え『地球に優しい』などのフレーズがあっても自分で確かめる必要があります。

COOL
CHOICE

私たちにできることは?

買い物で世界と繋がろう

商品を選ぶ時は、値段や見た目だけでなく、パッケージにあるマークや企業の取り組みを見て決めよう。原料の生産国など、1つの商品には沢山の国が関わっているよ。その国の自然や労働環境に配慮した商品を選ぶことで、世界の環境保全や児童労働の抑制などを応援できるよ。



オンラインを活用して 世界でどんな事が起きているか知ろう

新型コロナウイルスの影響で急速に発展している『オンライン』。おかげで、世界を跨いで活躍する人の講演を家で聞ける機会が増えたよ。興味がある分野についてとことん知るチャンス! オンラインを活用して世界で何が起きているのか知ろう。



ペットは家族! どんな生きものでも最期までお世話をしよう

ペットとして持ち込まれた生きものが『外来種』として問題をおこしているよ。どんな生きものでも、ペットとは最期まで一緒にいよう。『広い外で自由に暮らした方が幸せ』なんて都合の良い理由を付けて捨てるのはダメ。面倒見きれない動物は始めから飼わないことも大切だよ。



時間がない生きものたち

2020年7月に^{おどろ}驚くニュースが発表されました。なんと、シロクマとして親しまれている『ホッキョクグマ』がこのままでは2100年までに絶滅してしまう可能性があること。また、可愛くて人気の『コアラ』はオーストラリアの一部の州で2050年までに消えてしまうかもしれないこと…。

世界には2度と会えなくなる『絶滅^{ぜつめつ}』が心配される生きものがたくさんいます。私達がいま当然のように見聞きしている生きものが、あっという間に「かつて地球にいた生きもの」になってしまうかもしれないのです。



鳥根県の生きものは どうだろう？

生きものの絶滅は、海の方^{うしろ}向うだけのこと…？そんなことはありません。実は、私たちのすぐそばにも消えてしまいそうな生きもの^{ぜつめつ}たちがいるのです。今回は鳥根県の絶滅が心配される生きもの「絶滅危惧種^{ぜつめつぎんしゅ}」と、彼らを守る活動を紹介しします。

＼200M！ 浜田 ハッチョウトンボ



体長17mm～21mm、“日本最小のトンボ”、“赤い妖精”、といわれる『ハッチョウトンボ』。浅い^{あらい}湿地や休耕田で見られますが、環境の変化を受けやすく数を減らしています。「雲城ハッチョウトンボを守る会」は、2013年から浜田市の雲城地区で保護・観察を行っています。より多くの人にハッチョウトンボを知ってもらうため、観察しやすいように休耕田に木道を設置したり、田んぼと周辺の草刈りをしたり、木や竹を伐採して日当りをよくするなど、トンボの住みかを守っています。地域の住民やまちづくり委員会、小中高生、大学の環境サークルも協力しています。

保全活動費にあてるため、プロ-チなどちよとしたグッズも作っているよ。
「雲城ハッチョウトンボを守る会」
浜田市金城町下原171(問い合わせ先:雲城公民館)
TEL:0855-42-2076 MAIL: kumogi-k@ph-hamada.jp



安来 ＼「生きた化石」と呼ばれる/ オオサンショウウオ



オオサンショウウオは河川の上流域に棲む世界最大級の両生類。主に夜行性で、魚、サワガニ、カエル類が大好きな肉食性ですが、口に入るものは何でも呑み込むため、胃の中から野菜クズや焼き鳥の串が見つかったことも！かつては商用目的で乱獲され、国の特別天然記念物に指定されてからも道路整備や河川改修などで生息環境は悪化。近年頻発する大雨で下流域(非生息地)に流れやすくなっています。「SAN-INやすぎオオサンショウウオの会」は斐伊川水系西谷川(広瀬町西谷)を中心に生息調査を行い、マイクロチップを使った個体登録を進めています。また、人工巣穴や河道の清掃、地元の小学校への出前授業など普及啓発活動も行い、オオサンショウウオの保護活動に取り組んでいます。



定期的に生息調査・観察会を行っているよ！活動の様子は公式フェイスブックページでチェックしてね。
「SAN-INやすぎオオサンショウウオの会」
TEL:090-7593-3198(岩田代表) MAIL: urodela.anura@gmail.com

＼「幻の魚」と呼ばれる/ ゴギ



ゴギは西中国山地に住むイワナの仲間。イワナ属の中では、世界で一番南に住んでいる貴重な種類です。水がきれいな山奥の渓流が大好きで、山林が荒れたり河川が改修されたりすると数が少なくなる、とてもデリケートな魚です。益田市の「NPO法人アンダンテ21」は、高津川のゴギの生息状況調査や産卵場の観察、ゴギをふくむ生きもの全般のために植林・水質調査などを行っています。ゴギがたくさんいる環境を守るとは、森・川・海の豊かなつながりを守ることにもなります。流域の環境について地域や学校などで伝え、未来の担い手を育てる活動も行っています。



生きものの観察会やクリーンナップなど、楽しいイベントを開催しているよ。
「NPO法人 アンダンテ21」益田市水町18-10
TEL:0856-24-8661 MAIL: andante2100@gmail.com

＼庭では咲くことができない/ キンラン



小さな黄色い花をつけるキンランは、キノコなどの菌類と共生し、その菌類はコナラ・クヌギ・カシなどブナ科の植物と共生しています。この『三者共生』というバランスが整って、はじめてキンランは生きることができるのです。そのため、育った場所から動かすことが難しく、環境が少しでも変わると枯れて消滅してしまいます。松江市の「里山を育てる会」は定期的に田和山の森の手入れを行い、下草刈りや間伐、竹の伐採、ブナの植林をすることで環境を整えています。現在は見守り活動の効果もあり、キンランは200株程度に増え、可愛らしい姿は観察会でも人気です。



開花時期の5月に観察会を開催しているよ。森を歩いて身近な自然に触れてみよう。普段の活動は公式HPでチェックしてね。
「里山を育てる会」TEL:0852-23-6336 MAIL: y-ishi@wonder.ocn.ne.jp

今、HOTなnews

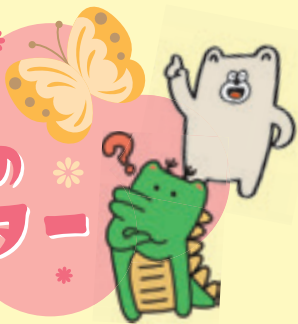
コロナによる経済活動の制限で、大気汚染が深刻だったインドでは数十年ぶりに空気が晴れてヒマラヤが見えました。ベネチアでは緑色の運河が透明になり、一部では魚が河に戻ってくるなど、コロナ対策により生じた「環境改善」が報告されています。また、今年の世界のCO₂排出量は前年度に比べて7～8%減るのではないかとされています。この数字が来年以降も毎年続けば地球温暖化の進行を止めることができ、2030年にはパリ協定で決めた平均気温上昇1.5℃未満になることが期待されます。かといって、このまま経済活動を止める生活を継続することで、目標を達成することは無理があります。そこで、いま世界が目しているのが「グリーンリカバリー」への取り組みです。グリーンエネルギーを積極的に取り入れる、リモートワークを活用する、日常に自転車などの健康的な移動方法を取り入れるなど、コロナが流行る前の世界に戻すのではなく、気候変動を抑え、生物多様性を守りながら経済を立て直す、新しく健康的な取り組みが必要です。

参考: NHKおうちでまなぼう! for School コロナ後こそ環境問題を考えて気候科学者 江守正多さん

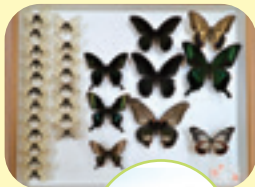
オロチさんと、しろくまさんの

標本は

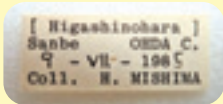
未来へのラブレター



あだ一、綺麗なチョウだわー！『キシマミドリシジミ』ちゅうんだと！
こうして虫を標本で見ると、羽の色とか、足の形とか細かいところが見られるが。



ほんとですね！！そうだオロチさん、チョウの下にある『ラベル』を見るのも面白いですよ！小さな紙に採集された日や場所、誰が採集したかが書いてあるんです！
例えばこの『ミドリヒョウモン』は、1985年7月9日に三瓶山東の原でサヒメルのスタッフの三島さんにより、調査のため採集されたそうです。



ええええ！？
1985年7月？今から35年も前だがね！



しかも、ただの記録じゃ無いんです！
この時・この場所に『確かにこの生きものが生息していた』という証拠になるんです。この情報が、過去から現在、そして未来へどんどん積もっていくことで、生きものの正確な分布、当時の環境、現在までの時代による環境変化などが分かるそうです。
35年前の三瓶山東の原では沢山の『ミドリヒョウモン』が群れで飛んでいたそうです。比べて今はそこまで多い印象はありません。



たまげたわあ…標本にそんな役割があったかー！わし、ただ綺麗だけん並べて飾っちゃうだけかと思っちゃったわあ…。
確か、標本は作るのによけい時間がかかるが？



昆虫1体につき『展翅』（羽を広げて乾燥させる作業）だけでも約3ヶ月、ラベル作りや種類の調査、整理、定期的なメンテナンス、保存環境の維持など…沢山の時間がかかると聞いたことがあります。



えらい手間だがん！！針も小さいし、乾燥剤も入れんといけんかー！！ワシらや、未来のひとに残す為に、細かい作業で作られとるんだねえ。何だかわし、この標本から愛を感じるでえ。

標本は、
未来へのラブレター♡

標本を色んな視点から見てみよう。
今まで気づかなかった
発見があるかもしれないよ★



しまねのエコ技

木のぬくもりと縁が集まるカフェギャラリー

出雲大社参拝客で賑わう神門通り。宇迦橋のたもとに建つ大鳥居の近くに、趣ある古民家がある。クラフト系ギャラリー『ANTWORKSGALLERY』だ。直営の工房で作った黒柿のアクセサリや木の器などの生活用品、そして店主がセレクトした全国各地の陶芸、帆布、彫金など多様な作家の作品が和の空間を楽しむように並んでいる。

店内に踏み入ってすぐ目にとまるのは、店主が絵付けを行う『起き上がり干支』。重りが入った丸い木に耳をつけ、顔や毛並みを描いた動物たちの置物はそれぞれ表情が違い、何とも愛くるしい。

工房『山のうへの吉や』や『じくの店』の作品には、主に地元の木が使われる。県内産の木と聞くと建築に使う大木が思い浮かぶかもしれないが、職人が活かすのは『アオハダ』や『ミズキ』など普段見向きもされない木。これらの木は地元の材木屋や個人の林家が山々を周り集めてくれるそうだ。小さな作品を生み出すからこそできる木の活用である。

店名のANT(アント)は「アリ」。「アリのようには歩みは小さくても、ゆっくりと着実に生きていけばいいかな…」と思っているんですよ」と、店主のちどりさんは微笑む。

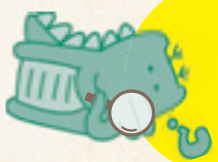
まるでアリが全国あちらこちらから縁を運んで来たようなお店だ。



アントワークス ギャラリー
ANTWORKS GALLERY

〒699-0711 島根県出雲市大社町杵築南1342-8
TEL 0853-53-2965 <http://www.kichiya.jp>





実際に会いに行こう！

自然館で見られる 絶滅危惧種



サヒメル

「絶滅危惧種に会いたい！」と思ったら、博物館や水族館などに見に行きましょう。

生息地に行くときも驚かせてしまい、

人が近づいただけで悪い影響をあたえることもあります。

「三瓶自然館サヒメル」・「宍道湖自然館ゴビウス」は生きものと自然について

楽しく学べる場所。ここで出会える貴重な生きものを紹介します。

イズモコバイモ

(絶滅危惧1類)

島根県の限られた土地にだけ自生している固有種。春先に茎、葉を地上に展開して開花します。花期は3月から4月と短く、実を結んだ後、地上部は枯れてしまいます。

林の環境変化や無断採集などで数が減っており、保全活動が行われている地域もあります。

なかなか見ることができないイズモコバイモを模型で見よう！葉のつき方や花の形・模様など、細かな部分まで見ることが出来ます。



司馬の白い花は、
下向きに咲くよ！



五本の角を持って
かっこいいけど
実はすごく小さいよ！



ウシヤウヤ

(絶滅危惧1類)

全国的に数が減っており、島根県でもごく一部のウシヤウヤが放牧される土地にしか生息しません。日本最大の糞虫で、オスはカブトムシのような角を持っています。

ウシヤウヤの糞を食べるため、放牧の減少と共に姿を消しており、指定希少野生動植物に指定されています。

10倍模型で見ると、角の形やお腹の下にある毛を見ることが出来ます。原寸大の模型では糞の中の様子を見ましょう。

ミナミアカヒレタビラ

(絶滅危惧1類)

限られた河川の下流域や水路などに生息する可愛らしい魚です。2012年3月に島根県の指定希少野生動植物に指定され、原則捕獲が禁止となりました。ミナミアカヒレタビラが卵を産む二枚貝の減少や外来種の移入、水質悪化などで数が激減し、絶滅が心配されています。

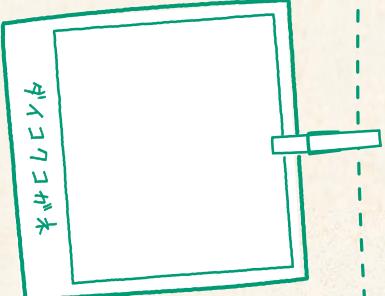
ミナミアカヒレタビラの生体展示を見よう！特にオスは繁殖期になると体色に変化が起きます。



かっつは身近な
小川や用水路などにも
いたんだよ！

スッチコーナー

絶滅危惧種の絵を描いてみよう！特徴を捉えて描けるかな？



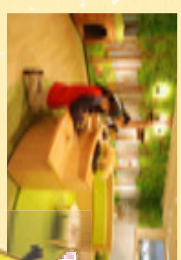
MEMO

島根県立三瓶自然館 サヒメル

国立公園三瓶山の豊かな自然の中にある、島根県や三瓶山の自然を体験しながら楽しく学べる博物館です。直径20mの大型ドームシアターや本格的な天文台を持ち、プラネタリウムや満天の星を楽しめます。令和2年6月に展示をリニューアル、触れる複製や鳥の鳴き声、AR技術を使った学芸員の展示解説、300インチの大画面に大迫力の映像で三瓶山の成り立ちを紹介する「火山時空シアター」など、五感で体験できる展示を充実させています。また、画面に映り込んで挑戦する「クイズコーナー」は、大人にも子どもにも人気。館内の展示で学んだ自然を、すぐさま野外で体験しよう！

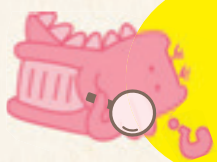
〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根1121番地8 TEL:0854-86-0500

開館時間:9:30~17:00(最終入館16:30) 休館日:毎週火曜日(祝日の場合は平日休)、年末年始、臨時休館
<https://www.nature-sanbe.jp/sahimer/>



僕たちは
会いに来たの！

しまエコ
付録



実際に会いに行こう！

自然館で見られる 絶滅危惧種



ゴビウス

「しまねしつドーターブック」を知っていますか？

数が減っている島根県の生きものを紹介する冊子です。絶滅の危険性によって

ランクが分けていて、ニホンアマガエルなど絶滅したのも載っています。

生息地や数が減った理由も書いてあるので、身近な自然に何が起きているのか

勉強するにはぴったりに。インターネットでも見ることができます。

ワガメ (絶滅危惧Ⅰ類)

日本最大の水生昆虫です。田んぼやため池などの止水環境にくらし、魚類、両生類、水生昆虫などを捕食します。夏、水面から出ている木の杭などに米粒大の卵を70〜120個ほど産みつけます。オスは卵が乾燥するのを防ぎながら、ふ化するまで保護します。生息環境の悪化や捕獲により数を減らし、現在ではその姿を見ることがほぼ不可能となりました。



繁殖期になるとオスの体色はきれいな青と赤にそまるよ！

ジツと動かせずに他の生きものが通るのを待っているよ！



ニホンイトヨ (絶滅危惧Ⅰ類)

巣作りをする魚として有名です。春、川の下流部でオスは水草を集めてトンネル状の巣を作り、メスを誘って産卵します。その後、オスは卵を保護し、ふ化した仔魚はしばらく川で生活したのち海へと下ります。成魚になると、春に再び川へと戻り繁殖します。水質の良好な環境を好みますが、川の汚濁や河川改修による水草の減少などにより、その数は減っています。

モリアオガエル (準絶滅危惧)

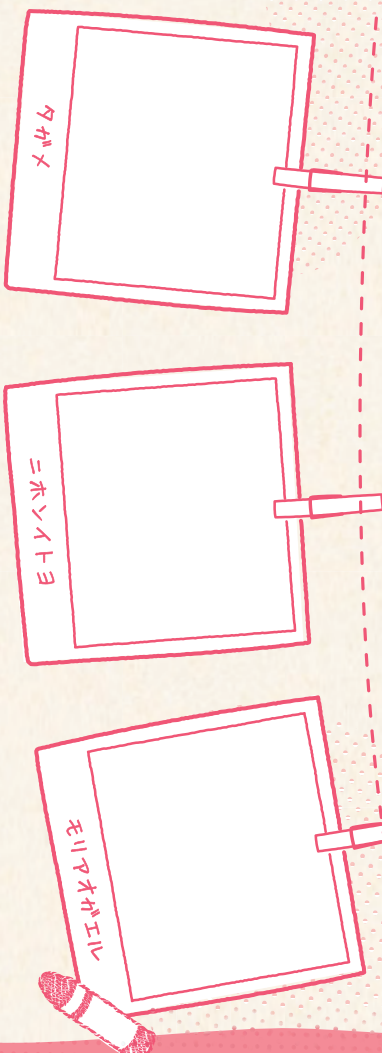
日本に生息するカエルの中では大型で、森林の樹上などにくらし、梅雨、繁殖期を迎えると水辺まで移動し、池や沼、田んぼの水辺まで張り出した木の枝にソートボール大の淡黄色の卵塊を産みます。ため池の減少や河川改修、道路整備による樹木の伐採などによる繁殖場所との寸断、適した生息環境や繁殖環境などの減少により数を減らしています。



オスよりもメスの方が大きくなるよ！

スケッチコーナー

絶滅危惧種の絵を描いてみよう！特徴を捉えて描けるかな？



宍道湖自然館 ゴビウス

島根県河川と宍道湖・中海にくらす生きものの200種1万点を展示する体験学習型水族館です。館内には大小さまざまな水槽があります。こだわりの個体水槽では、館のマスコトキヤラクターのモデルとなっている「マハゼ」や、宍道湖が名前につく「シンジコハゼ」などの宍道湖・中海にくらすハゼの仲間を特徴とともに紹介したり、「ニホンイトヨ」や「インドジョウ」などの島根の絶滅が心配される生きものを紹介する水槽があります。

ラムサール条約登録湿地であり、それぞれ川や海につながり異なる塩分濃度をもつ2つの汽水湖を再現した「汽水湖・中海」や「汽水湖・河川」の展示、中下流域を再現した「河川」や「汽水湖」などでは環境とともにそこにくらす生きものを紹介しており、土、日、祝日限定で解説イベントも開催しています。

自然豊かな島根県の水辺の自然環境にこだわった展示が特徴的なゴビウスでぜひ水辺の生きものから島根を満喫してみてください。

〒691-0076 島根県出雲市岡田1650-5 TEL:0853-63-7100
開館時間:9:30〜17:00(最終入館16:30)
休館日:毎週火曜(祝日の場合は翌平日休)、年末(12/28〜12/31)、1/1は臨時開館 <https://www.gobius.jp/>



* 展示の入れ替え等で会えないことがあります。ご了承ください！